鶴見さん死去

正しさ」の危うさ見



新しい哲学の潮流との そこから始まる。 鶴見俊輔さんの出発は 思想家であり哲学者、 15歳で米国に留学、

を一市民連合)」など

か」について、暮らし

普遍性を前提にして考

平連(ベトナムに平和 誌「思想の科学」や「ベ 身に浴びた。戦後、雑 出合いや、交換船での 帰国など時代の波を全 おける正しさとは何 も目を配り、 の活動を行い、戦後思 想に深い影響を与え た。漫画や大衆文化に

「日本に

=2009年1月、望月亮一撮影

-。 日本を代表する 上少年だった」 「私は不良 鶴見俊輔さんの語録

隊員のほとんどが自分から手を挙げたかつて の特攻隊には、拒否できない「共同体の強制」 があった。行くのを決めるのは本人、しかし、 密室の中で「決意」させられるような環境は 避けるべきだ(1992年9月、国連平和維持活 動に派遣される自衛官らの電話相談の開設を 呼びかけて)

・ベ平連なんかをやっていましたから、非常に 困ることなのですが、よく「正義の人」と間 違えられるんですよ。本当は私は決して 義の人」ではなくて、内心ものすごい葛藤を 起こしている。気も狂わんばかりだったんで すよ (95年8月)

・不健康だった子供のころから、健康でいるこ とを母や学校、社会から強制されたが、自分 を守ることは不健康を守ることだった(96年 12月)

・私の心意気はね、最後の一息まで、不良少年 として生きることです。そりゃ不良少年の意 味は変わってきますよね。安倍首相が優等生 私は不良です。当然のことです (2007 年8月) ※いずれも本紙掲載

> れた官僚的思考の貧し から見つめ、優秀とさ 日本を日米双方の視点

さを照らし出した。

名もない人々が寄り

姿が忘れられない。 員、池田知隆) (元・毎日新聞論説委

ことはできないという 学的に考えて排除する るという可能性は、科 の場から問い続けた。 です」。鶴見さんは、 ない」と批判する思想 伴運動で、自立してい ベ平連の活動を「社会 のが、基本的な考え方 対し、そう応えている。 012年3月死去)に 家、吉本隆明さん(2 主義国家群に対する同 「自分が間違ってい 後藤新平、父鶴見祐輔 める明治以来の教育制 冷静に見つめた。 え、活動するのは自分 と歴史に名をとどめる 粋な心情」が、極端な る。正しいことへの「純 にできないと言ってい 政治家のもとで、不良 回となく伺った。祖父 度」と鶴見さんから何 題は「正解だけをもと 言動に向かう危うさを 現代日本の大きな課

を隠さない。戦時中の 少年として生きたこと られた姿が印象に 心に富み、皆が元気を る。人間が好きで好奇 もらってきた。 自由なことを語ってお でなく市井の立場から 衆のものにした。組織 紹介に努め、哲学を民 く、との精神からその た。哲学を分かりやす き先輩であり友人だっ の話若い時からの良 哲学 民衆のものに 哲学者の梅原猛さん

う。ただ一つの正解や

、間はしばしば間違

と熱っぽく語っていた を知らない。澄んだま りを大切にする哲学者 さんほど市民的つなが 会」での活動……。鶴見 の支援、後年の「九条の の活動や米国の脱走兵 添った「声なき声の会」 盾に戦争に反対する」 なざしで「もうろくを